



UIFA ニュース

発行 宇治市国際親善協会

事務局 〒611-8501 宇治市宇治琵琶33 宇治市役所秘書広報課内
電話 0774-22-3141 (内線2058) FAX 20-8776
Eメール hishokohoka@city.uji.kyoto.jp ホームページ <http://uifa.news.coocan.jp>

第 80 号
平成29年(2017年)11月

宇治市では、平成8年度から毎年、友好都市カナダ・カムループス市にあるトンプソン・リバーズ大学へ市民留学生を送り出しています。これまで69名の方が市民留学生として、学び、多くの市民の方々と友好を深めてられました。今年の4月から8月まで留学された中村実咲さんと則枝佳奈さんに留学体験をお寄せいただきました。



教えてもらったこと

カムループス市・トンプソンリバーズ大学
平成29年度市民留学生

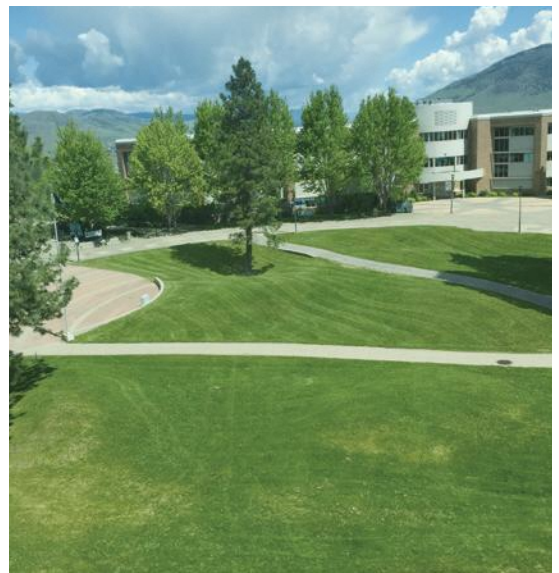
中 村 実 咲



カムループス市への留学は、私にとって初めての留学でした。期待や不安を胸に抱き、カムループスへ到着したのをつい昨日のこのように覚えています。最初に驚いたことは、その広大な土地と自然でした。緑がとても豊かで、野生の動物を目にする機会も多く、またトンプソンリバーズ大学の敷地や道路などもとても広々としていました。緑が豊かなこともあり、空気が澄んでいて、夜には美しい満天の星空を見ることができました。星を見に連れて行ってもらった時には、見た

こともないような星の数と、まるで吸い込まれてしまいそうな美しさ、そして大地の広大さに感動し、言葉が出なかったほどです。あの日見た天の川、流れ星は、どんな夜景の写真をもってしても勝ることのできない、そして忘れられない、美しい思い出です。

広く豊かだったのは、自然と土地だけではなくありませんでした。ホームステイ先やトンプソンリバーズ大学ではたくさんの人びとと交流を持つことができました。彼らはみな広く豊かな心を持っていました。さまざまな国、たくさんの考え方をもつ人びとと知り合い、彼らと交流を持ちましたが、彼らはみな優しく、知識欲を持ち、他の考えを受け入れる大きな心を持っていたように思います。また、彼らに気付かされること、学ばせてもらうことも多くありました。たくさんの人びとに囲まれ、彼らの温もりに触れることができました。留学は一人の戦いではないこと、孤独に思える時でも、傍で話を聞いてくれたり、背中を押してくれたり、一緒に悩んだり、泣いたりしてくれる人がいること、何気ない普段の生活の中でたくさんの人に支えられ、守られていること、そして、そのことに感謝すること。毎日の生活が当たり前のものではなく、また一人で生きているわけではないということや、支えてくれている人びとの存在に感謝するということに気付けたことは、今回の留学の中で最も私を成長させたできごとだったのではないかと思います。何一つ



当たり前のことはなく、ありがとう、と思えること、伝えられることは、私たちに見える世界を変える、いわば魔法の言葉のようなものなのかもしれません。

3か月半、楽しいこと、嬉しいことのほかに、悲しいこと、つらいこともありました。それでも、笑顔でいられたのは、帰国したくないと思えるほどカムループス市を好きになれたのは、出会った人びと、私を支え、たくさんのことを教えてくれた人びとのお陰だと思えます。今思えばとても短い期間でした。ですが、とても色濃いものでした。カムループスでの出会いや経験、学んだことは確実に私の考え方やものの見

方を変え、そして成長させてくれました。留学中に会った人びと、日本からたくさん支えてくれた家族や友人たち、そして今回のご縁を結んでくださり、貴重な経験をさせていただいたカムループス市、宇治市の両市とその関係者の皆様に心より感謝致します。本当に、ありがとうございました。



カムループスの思い出

カムループス市・トンプソンリバーズ大学
平成29年度市民留学生

則 枝 佳 奈



4月21日から8月7日にかけて約3か月半、カナダのカムループス市に留学しました。ホームステイをして、カナダ人の家族と生活し、そして、現地では、トンプソンリバーズ大学に通っていました。

私は、今回親善大使として行かせていただいたということで、留学の間に、たくさんの現地の人と関わりを持つことを目標としていました。一番身近なカナダ人はホストファミリーなので、たくさん話をするように心がけました。ホストファミリーはとても良い人達で、毎日とても楽しい時間をすごしました。夕飯時にお話をいっぱいしたり、買い物について行ったりして、現地の人と同じ生活をさせてもらいました。子供たちとも、ほとんど毎日、一緒にトランポリンをしたり映画をみたりしたりして遊びました。週末はピクニックや動物園などの家族のイベントに参加させてもらい家族の一員のように扱ってもらいました。

その他にも、お隣のお家にお呼ばれして一緒にご飯を食べたり、バスで話しかけてくれた人と仲良くなって、会う度におしゃべりしたり、初対面のカナダ人家族にフェリーに乗せてもらったり、友達と一緒に公園に行って、現地の人に共同農園を案内してもらうなど、現地の人と関わる機会はありませんので、機会を逃さないように自分から積極的に話をするように心がけていました。私の英語はあまり上手ではないけれど、カムループスの人はとても優しく、いつも外国人の私と話すことを喜んでくれていました。

カナダ人だけではなく、他の国の人達との交流もたくさんありました。私は英語のクラスをとっていたので、クラスメートはみんな外国から来た人ばかりでした。しかし、カナダは移民国家なので、クラスメートの大半がカナダ国籍や永住権を得るために学校に来ている人が多かったことが印象的でした。クラスメートで、とても仲良くなった友達の一人に、カナダに移民で来ていた人がいて、その人とは家族ぐるみで仲良くしてもらって、お家に呼んでもらったり、ハイキングやバーベキュー、カヤックなどたくさんの良い経験をさせてもらいました。その人のお父さんに「経験はお金に変えられない財産だから、君のカナダで得た経験は一生物だよ。佳奈の何でも積極的に経験しようとする姿勢はとても良いから大切にね」と言われたのがとても心に残っています。



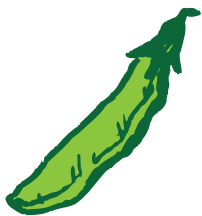
また、学校でのアクティビティに積極的に参加したので、クラスが違っても友達をつくることができました。中には、国際問題やお互いの国について深く語りあえる友達もでき、その国の伝統料理を作ってもらえたりして、文化交流もできました。今後、日本やその子の国で会う約束をしている友達もいるのでとても楽しみです。

ブリティッシュコロンビア州に山火事の影響で非常事態宣言がでていました。幸い、カムループス市自体には火事は起こりませんでした。最後の1か月間は煙が充満していて、空気は真っ白で、極力室内で過ごしていました。また、一時期は学校が避難所となり、他の市から避難してきた人でキャンパス内がいっぱいでした。生徒は避難場所に入れなかったのですが、世界中から、ボランティアの方が来ていたそうです。2週間後、避難場所が変わり、学校では避難して



てきた人は見なくなりましたが、火事発生から1か月たった、帰国直前の頃もカムループスの避難所ですごしている人はたくさんいました。私自身も煙の影響で、帰国の飛行機が2日欠航になりましたが、ホストファミリーの好意でもう2泊させてもらいました。今回、山火事による、影響はとても大きいです。1日でも早く、復興が進むことを望みます。

今回の留学で、貴重な経験をたくさん得ることができました。また、カムループスの魅力をとて感じた3か月半でした。これからも宇治市とカムループス市の友好関係が末長く続くことを望みます。



黄檗文化芸術展 (中国福建省の香りや景色、歴史の彩どり) 「今、黄檗文化に触れる時！」

宇治市日本中国友好協会 事務局長 矢野 友次郎

7月1日より9日まで、黄檗山萬福寺に於いて「黄檗文化芸術展」が開催されました。

この催しは、本年が日中国交正常化45周年及び隠元禅師 345 回忌記念の年に当たり中国福建省福清市の黄檗文化促進会が主催し、宇治市日中友好協会（会長井上 浩）や黄檗山萬福寺が後援協力をしました。

黄檗印象の“光・色彩・メロディー”をテーマとして、馮学敏さん（日中両国の写真協会会員で日本中国友好撮影協会副会長）の黄檗印象写真展、福清市の萬福寺や厦門の世界遺産“土楼群”、中国茶摘みと生活の



作品80点。周榕清さん（元東京芸術大学客員研究員で福建省美術家協会理事）の漆絵展は天女や飛天、童話絵の42点、魏氏楽譜による古典音楽演奏も披露され、期間中400名を超える人たちが黄檗文化に触れることが出来ました。1日の開会式には、黄檗文化促進会、中国駐大阪総領事館、宇治市、宇治市国際親善協会、京都府観光機関、長崎県、福建同郷会、萬福寺、地元町内会、徳川事業団、宇治市日中友好協会等多くの関係者で盛大に開催を祝いテープカットされました。

黄檗文化とは、中国の明朝末期（1654年）、中国福清の高僧・隠元禅師が日本に渡来、臨済宗の教義を広め

るためだけでなく、当時の先進的な明朝文化と技術を伝え、江戸社会の発展に重要な役割を果たされました。徳川幕府の創設の時期で、「青湾茶話」（1756年）には、「是茶を沸湯の中に入れて火を以て煮ず香気の発するを待つて飲む。隠元禅師始めて日本へ此の法を伝うと云えり」とある。また、隠元禅師は黄檗宗の開祖で萬福寺を創建、併せて普茶料理・隠元豆・西瓜・蓮根・孟宗竹・木魚等も日本に伝えられた。

年月が経ち隠元禅師と黄檗文化は、少し遠いものになりましたが、黄檗文化を改めて伝えるための催しでした。日中両国の文化交流を促進し、歴史と文化のつながりを知ることができました。宇治市日中友好協会では、11月3日に「（仮題）隠元渡来と宇治市」の講演会の開催や、11月23日から福建省を訪ね、見聞を広げる活動を予定しています。



雑観雑感

今年1月、宇治市国際親善協会主催の「スリランカ国ヌワラエリヤ市訪問」に参加した。

スリランカ国は1980年に仕事の関係で2ヶ月ばかり滞在したことがあり、今回は2回目の訪問であった。勿論当時と比べるとインフラは整備され、部分的ではあるが高速道路もあり、街中も随分綺麗になっていたが、茶畑に見る「茶摘みおばさんの姿」は当時とあまり変わらない様子で当時を懐かしく思い出した。

スリランカ国と日本の関係、これは久保田会長よりお教え頂いた話であるが、第2次大戦後の「サンフランシスコ講和会議」においてアジア諸国が厳しい賠償請求を求める中、スリランカ国（当時はセイロン）のみが賠償請求権を放棄し、平和国家への道を求め国際社会への受け入れを求めたとのこと。

この恩義に報いるべく、復興を果たした昭和40年以降、今度は日本が道路、通信、港湾、電力等インフラの整備、農業技術の指導、医療活動、特に感染症対策等、多岐にわたるODA活動で支援を続けている。

従って、あの橋も、このダムも日本の援助で出来たと感謝されている。

このような歴史的経過や今日の支援もあり、スリランカと日本は伝統ある友好国であり、スリランカの人々は大変な親日家である。どこに行ってもにこやかに接していただき旅の楽しさを倍増させて頂いた。

スリランカ国は「アジアのハワイ」と呼ばれることもある。今回の訪問は内陸部で綺麗な海を見る機会は少なかったが、南の海岸線ゴール、ヒッカドーワ等、素晴らしい景色を満喫できるところも多くある。自信をもっておすすめ出来る観光地である。皆さんも是非ご検討ください。（H.I）

会員募集と会費納入のお願い

当協会の運営は皆様の会費によって成り立っています。会の運営活動を活発に行うため、皆様方の会費納入をよろしくお願いいたします。

平成29年度の会費納入がまだの方は会費納入をお願いします。

併せて、会員の募集をしています。皆様方のご協力をお願いします。

年会費 個人会員 2,000 円 団体会員 5,000 円 法人会員 10,000 円

【振込先】 京都銀行宇治支店 普通預金 678459 受取人は「宇治市国際親善協会」です。